

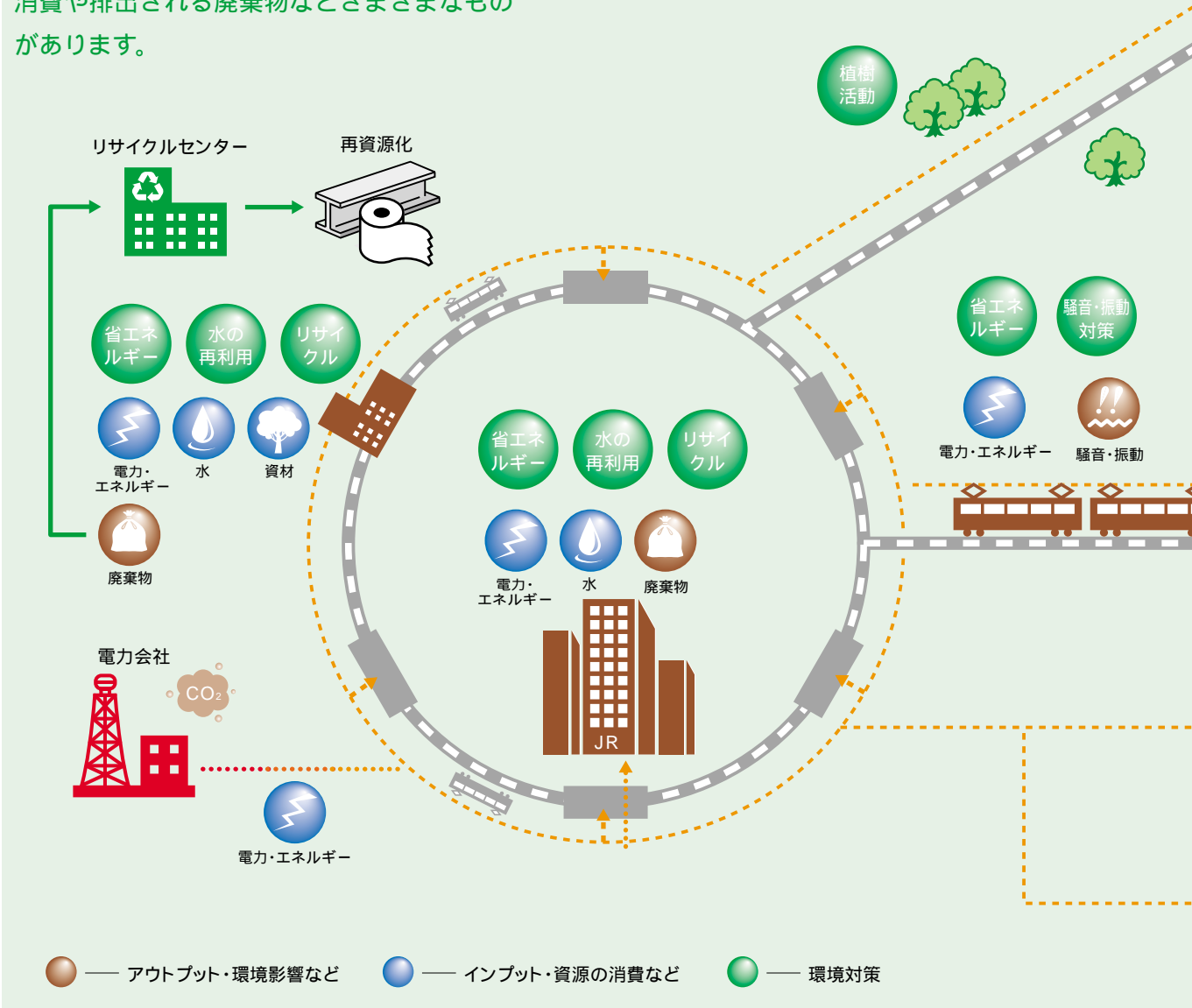
JR東日本の事業活動による環境影響と対策

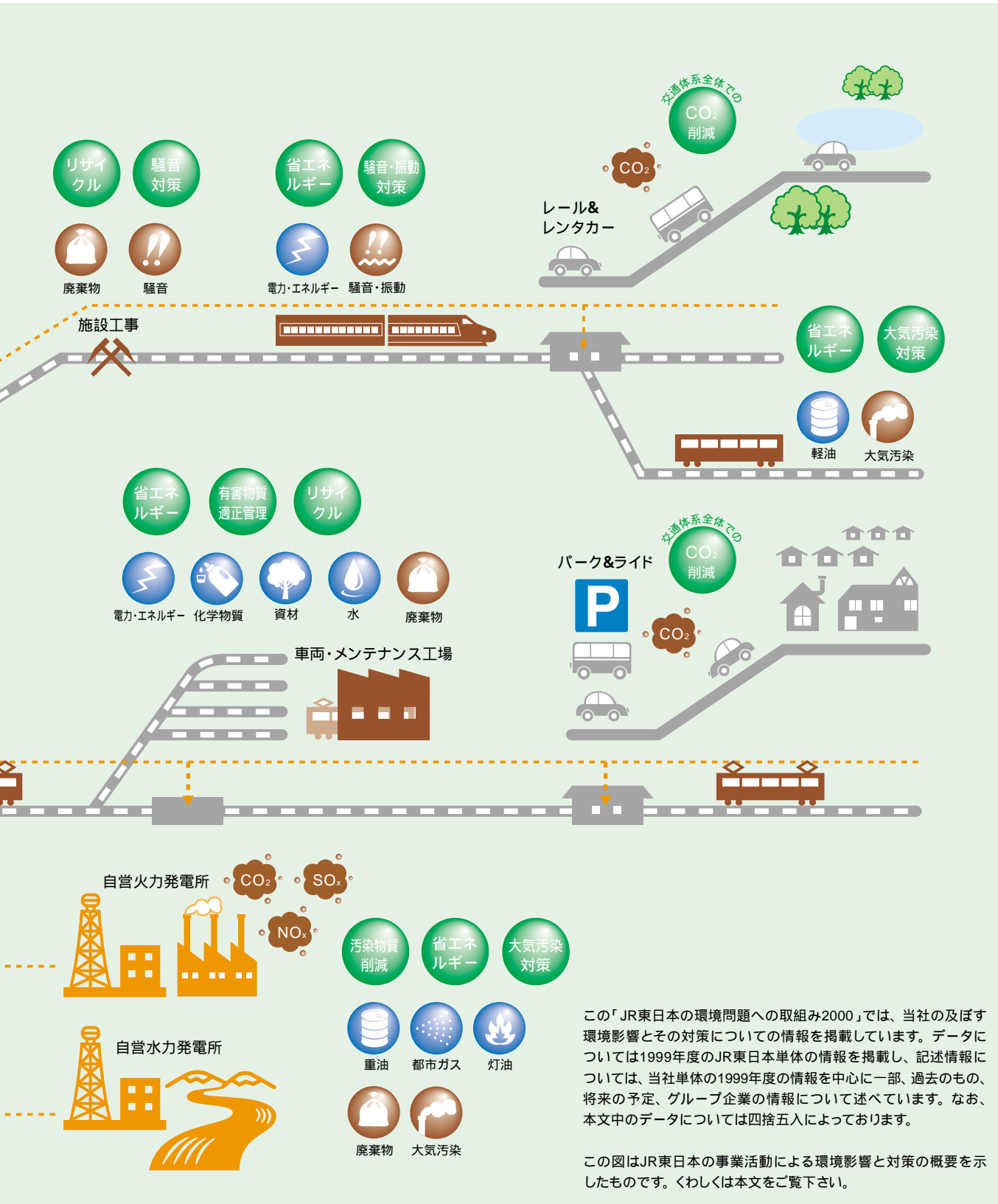
JR東日本は、首都圏を含む本州の東半分を事業エリアとし、約7,500kmの沿線に、約1,700の駅、約13,000の車両で、鉄道輸送サービスを中心として、お客様にさまざまな生活の場面でのサービスを提供しています。

事業活動にともなう環境影響としては、列車運行にともなう大量のエネルギー消費や騒音・振動、お客様が駅や列車で捨てるゴミ、施設や車両のメンテナンス時における資源の消費や排出される廃棄物などさまざまなものがあります。

また、地球温暖化の観点では、日本の鉄道を含む運輸部門のCO₂排出量が年々増加しており、旅客輸送の重要な位置を占める当社の役割は大きなものがあります。

JR東日本では、こうした環境への影響を可能な限り小さくしていくと同時に、鉄道の環境面での効率性をよりいっそう発揮できるように、利用しやすい鉄道づくりに努力しています。





この「JR東日本の環境問題への取組み2000」では、当社の及ぼす環境影響とその対策についての情報を掲載しています。データについては1999年度のJR東日本単体の情報を掲載し、記述情報については、当社単体の1999年度の情報を中心に一部、過去のもの、将来の予定、グループ企業の情報について述べています。なお、本文中のデータについては四捨五入によっております。

この図はJR東日本の事業活動による環境影響と対策の概要を示したものです。くわしくは本文をご覧ください。